

再エネ電力網向けに安定供給

新年特集

革新

Innovation

—照らせ、金属の未来—

人口の減少や建設業界における人手不足、これによる住宅着工数の減少などに伴い、これまで以上に大きな伸びが見込めないとされている電線業界。今後は足元で増加傾向にある通信トラフィックへの対応をはじめ、実用化が期待される核融合発電や再生可能エネルギー(再エネ)といった環境の分野、またこれに関係する電力網の整備などを通じ、社会への貢献を図っていききたい考えだ。日本電線工業会の森平英也会長(古河電気工業社長)に業界の現状や今後の見通し、戦略を聞いた。

—銅電線における2024年の出荷量の(銅量)の振り返り。—
「部門別で見ると、通信・電力部門は前半好調だった反面、夏ごろと年末に需要が落ち込んだことにより年間では23年と同程度で着地した。電気機械部門は新型コロナウイルス禍に伴う巣ごもり需要の反動で長いこと前年比マイナスという月が続いていたが、分野によっては家電などでプラスになる月も出始めており、底打ちが期待できる年となった。自動車部門も23年末ごろから自動車メーカーでの認証不正問題の影響で前年比マイナスの状況にあったが、足元は過去データと比較しても悪くない数量が見込まれるようになってきている。建設・電販部門は年明けから5月ごろまで前年比プラスで推移していたが、その反動で6月以降に急激に落ち込み、年間では前年並みの着地となった。その他部門は前年比プラスとなる分野

が多く、景気回復による需要増に、輸出部門の需要の高まりが感じられた。輸出部門は中東向けの電力ケーブルといった大型案件が堅調だった。—25年の見通し。—
「通信・電力部門は24年並みの出荷量を見込む。電気機械部門は自動車生産台数の回復とともに電装品部門の

超電導で核融合炉に貢献

認知度向上へ魅力発信

「電気自動車やハイブリッド車に使われるモーターの巻線、センサーといった電装品に用いられる機器用の電線の需要が高まるとみている」
—アルミ電線、エコーケーブルは。—
「アルミ電線は足元で銅が引き続き高値で推移していることや自動車の軽量化の要請が強いことから、自動車のワイヤハーネスの代替として出荷が進むとみている。エコーケーブルはコスト高をエンドユーザーに納得してもらえないかどうかが需要を左右するポイントになる」
—電線業界が社会

需要が戻るとみていて、自動車部門は生産台数が回復すれば、統計を取り始めて以来の最高値が期待できる状況にある。建設・電販部門は都市部の再開発をはじめ、データセンターや物流倉庫、再エネなどに関連した大型案件の需要に期待している。その他部門は24年に続く各分野の景気回復やこれに伴う電線

で果たす役割について。「一つが核融合発電になる。核融合炉の心臓部ともいえる、プラズマを発生させる超電導コイルを構成する超電導線材の部分で大きな役割を果たす必要があると認識している。仮に核融合発電所が造られた場合に、発電された電力を効率的に送電するためのケーブル

新春インタビュー

書きする形で取り組んでいる。SDGsに関しては会員各社の取り組みがベースになる中、各社の情報発信に加え、当会も複数のメディアに対して各社の取り組みの状況などを紹介させてもらっている」
—「2024年問題」への対応と足元の進捗。—
「大きな問題としてまず挙げられるのが物流関係になる。23年6月に政府が策定した『物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン』に基づき、当会も電線業界における物流の自主行動計画を策定した。同12月に経済産業省に提出しており、現在はこれに基づき効率化に取り組んでいるところになる。24年5月に公布された『流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律

も必要になる。再エネとともに、持続可能なエネルギー社会の実現に貢献していきたい」
—足元で増加する—
「豊かな暮らしの実現には情報通信網の拡大や充実、発展が必須だ。電線業界としては高品質、高付加価値、高機能な光ファイバー関連製品などの安定供給が引き続き求められると考えている」
—「再エネの分野」
「地域間連系線や広域連系線の電力網の整備といった電力のレジリエンス強化に求められる安定供給の責任は今後ますます大きくなるだろう」
—足元では脱炭素に向けた取り組みが堅調に推移している。—
「当会が策定したカーボンニュートラル行動計画に基づく30年度目標を23年度に既に達成するなど、前倒しの進捗にある中、現在50年に向けた議論を継続しつつ、上

「2つある。一つが会員社を対象にした有識者講演会やパネルディスカッションの開催になる。会員社の経営課題解決の一助になればと活動している。共通の課題について業界が一丸となり取り組むという機運を高める意味合いもある。もう一つが広報戦略だ。11月18日を『電線の日』と定め、一つの契機として広報活動を行っている。電線や電線産業への認知度を高めるとともに、電線業界で働く皆さんに自信を持って働いてもらえる職業であるということ再認識していただく活動でもある。24年の電線の日には、元サッカージャーナルの岡田武史氏と電線工業会長による対談ムービー『SPICIAL TALK』を制作し、人材育成におけるリーダーシップと『』を撮り、公開させてもらった。今回は人材育成やリーダーシップという観点でお話いただいたというため、こういったメッセージをぜひ電線業界のわれわれの仲間だけでなく、一般の皆さんにも見てもらえればと思っています」
—「電線アンバサダー」石山蓮華さんに對する期待。—
「電線の日に合わせて、電線愛好家でもある石山さんがパーソナリティを務めるラジオで企画を放送するなど、機会があるごとに幅広いメディア・媒体を使って電線の魅力を発信していただいている。当会による会員社の訪問企画などを通じて、電線が人々の生活を支えているということだけにとまらず、愛着と直接触れ合う場を通じ、電線や電線産業が応援されているということを会員社に実感してもらいたい」
—「11月18日は電線の日」への思い。—
「25年は会員社や消費者団体のお力添えなどをいただきながら、電線の日制定理念の一層の浸透に取り組んでいきたい」



日本電線工業会 森平英也会長

不足への対応。—電線業界全体で課題になっている人材不足への対応。—
「11月18日は電線の日」への思い。
「25年は会員社や消費者団体のお力添えなどをいただきながら、電線の日制定理念の一層の浸透に取り組んでいきたい」
(松田 元樹)